

編集後記

昨年、はじめて図書館職員採用に面接官として立ち会った。自分自身図書館員になるのののたうち回っていたのが、それほど前のことではないというのに。面接してみて、何よりこんな短時間で、人の何かがわかるわけではない。結局重視したのは、仲間として一緒にやっていけるかという一点だった。たくさんの人と会ってみたが、そう思える人は実はそれほど多くない。図書館の知識がどんなに豊富でも、あわなさそうな人は採れない。図書館司書の資格もあればいいが、なくてもいい。図書館員の専門性を自ら否定しているといわれても仕方がない有様だ。その中で一人、私の質問に私の望んだ答えをする方がいた。しかもその方は図書館の非常勤職員であることの不安にさいなまれ、正職員になることを心から望んでいることが伝わった。就職活動をしていた頃の自分を見る思いだ。当然私はその方を採りたいと思ったが、結果的に採用には至らなかった。私以外に面接官として入っていた、2名の事務職員の評価がよくなかったのだ。大学図書館員は図書館員である前に大学職員である。2人の面接官のおメガネにかなわない人を探るほど、私に人を見る目はない。しかしその方を採用できなかったことについては、間違いなく何かを裏切った気持ちがしている。

(増田 徹)

会誌編集部員

部 長	増 田 徹 (藍野大学)
部 員	井 上 智奈美 (三菱京都病院)
	寺 澤 裕 子 (関西労災病院)
	松 尾 知 香 (石切生喜病院)
	若 杉 亜 矢 (松下記念病院)

病院図書館 第28巻 第4号

季刊

2009年7月21日 発行

定 価 ¥1,500 (年間購読料 ¥6,000) 送料込

発行所 近畿病院図書室協議会

〒651-1145 兵庫県神戸市北区惣山町2-1-1 社会保険神戸中央病院医学資料室 気付

TEL (078) 594-2616 FAX (078) 594-2289

印刷所 (株)リョーイン大阪営業所

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-3-20 (三菱重工大阪ビル4階)

TEL (06) 6446-4088 FAX (06) 6446-4089